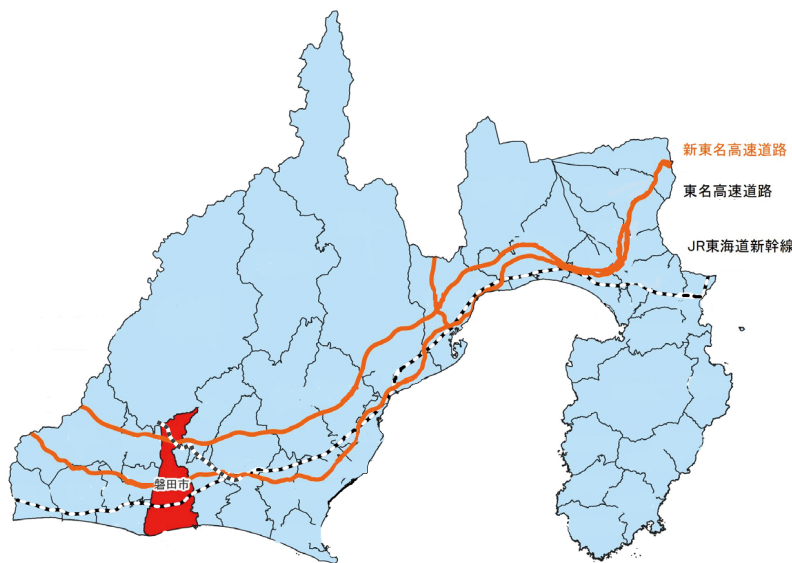


第2章 本市の現状と施策の方向性

市の概況

市の位置・面積

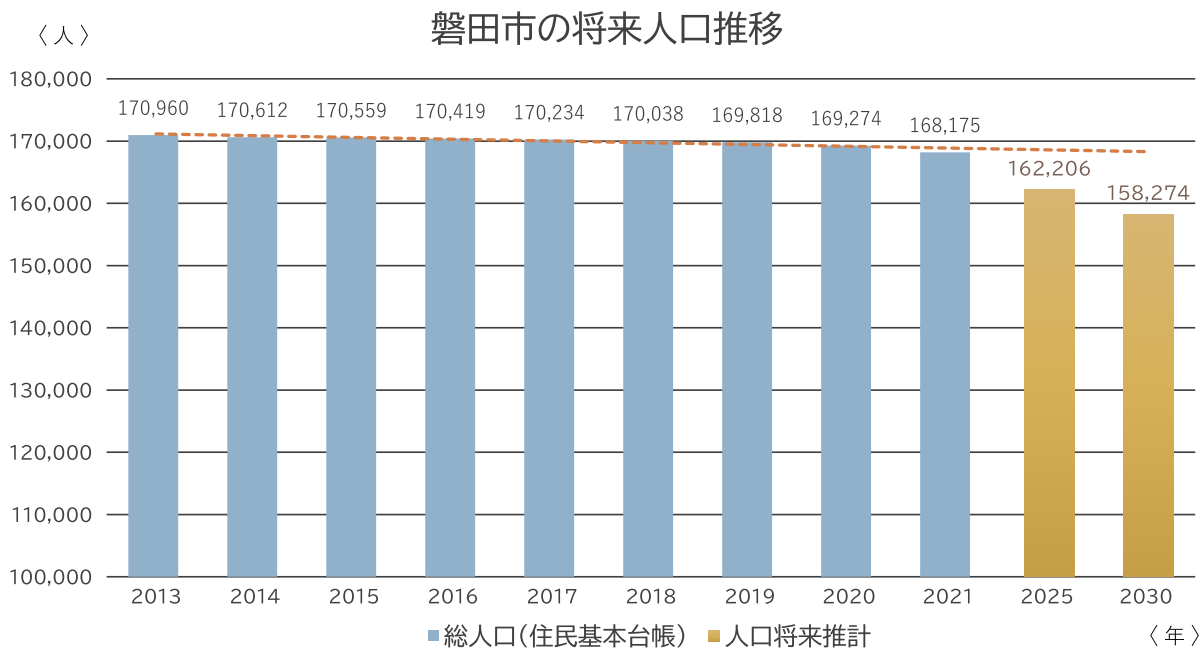
静岡県西部地域の天竜川左岸に位置し、浜松市・袋井市及び森町と接しています。面積は163.5k㎡で、遠州灘に面した平野部と磐田原台地及び北部の山間地帯に囲まれた豊かな自然環境を有しています。また、国土レベルの交通軸である東名高速道路・新東名高速道路・国道1号・国道150号の道路とJR東海道新幹線・JR東海道本線・天竜浜名湖線の鉄道が東西に走っています。



(出典:国土交通省「国土数値情報:行政区域」)

人口

2008年(平成20年)をピークに2022年5月末は、約16.8万人まで減少しており、今後もこの傾向が続くことが予想されます。

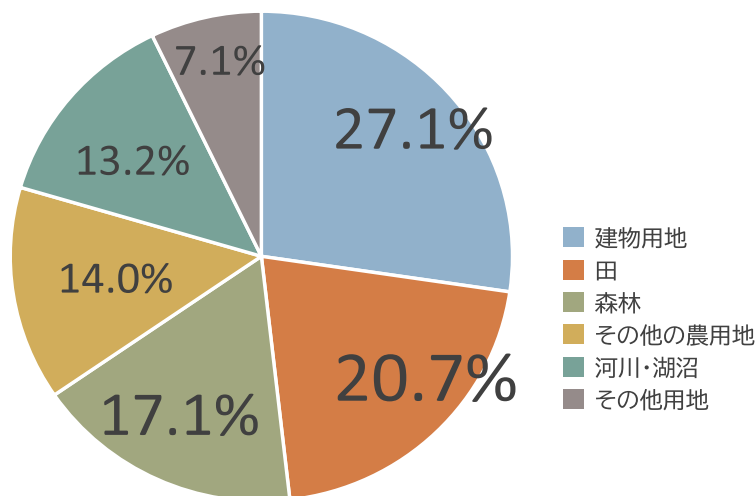


(出典:社会保障・人口問題研究所「総人口(住民基本台帳 12月時点)、将来予測」)

土地利用

田やその他農用地を合わせた農地が34.7%と最も多く占めています。次に建物用地が約27%となっています。

磐田市の地目別の面積割合

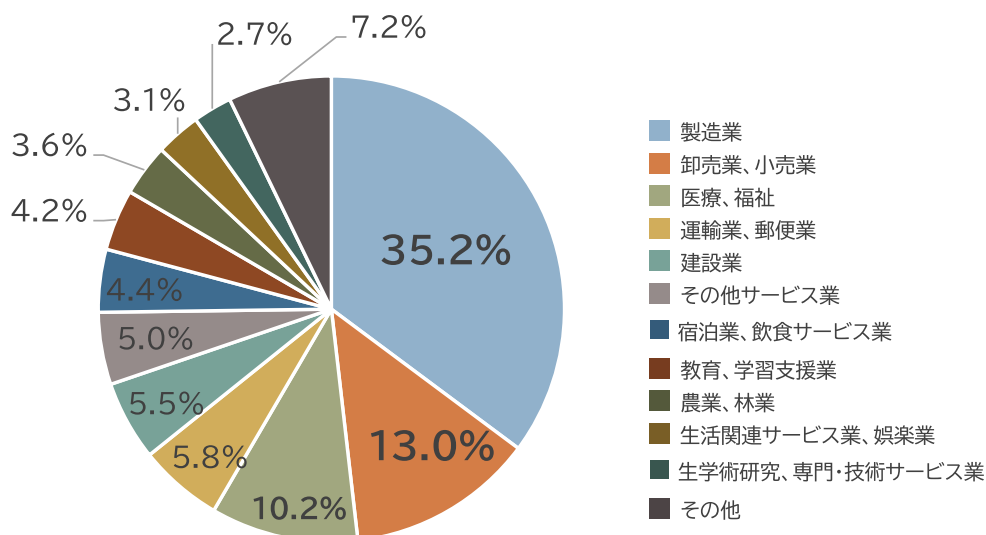


(出典:国土交通省ホームページ「2019年度国土数値情報」土地利用細分メッシュデータ)

産業

産業別就業人口総数は、約8.5万人で、このうち製造業の就業人口が約3万人で全体の約35.2%を占めています。このことは、本市が工業都市の特色を持つことを端的に示しています。

磐田市の産業別の就業者数割合



(出典:総務省「令和2年度国勢調査」就業状態等基本集計)

2 気候・気象

気候・気象

遠州灘に沿って流れる黒潮や豊富な日照時間から年間を通じて温暖な気候に恵まれています。直近10年間(2012年~2021年)の平均気温は16.6℃で、年間降水量が平均1,828mmです。なお日照時間が年平均2,300時間を超えるなど全国的にも極めて日照時間の長い地域となっています。

磐田市の月別平均降水量・気温・日照時間(2012年~2021年)

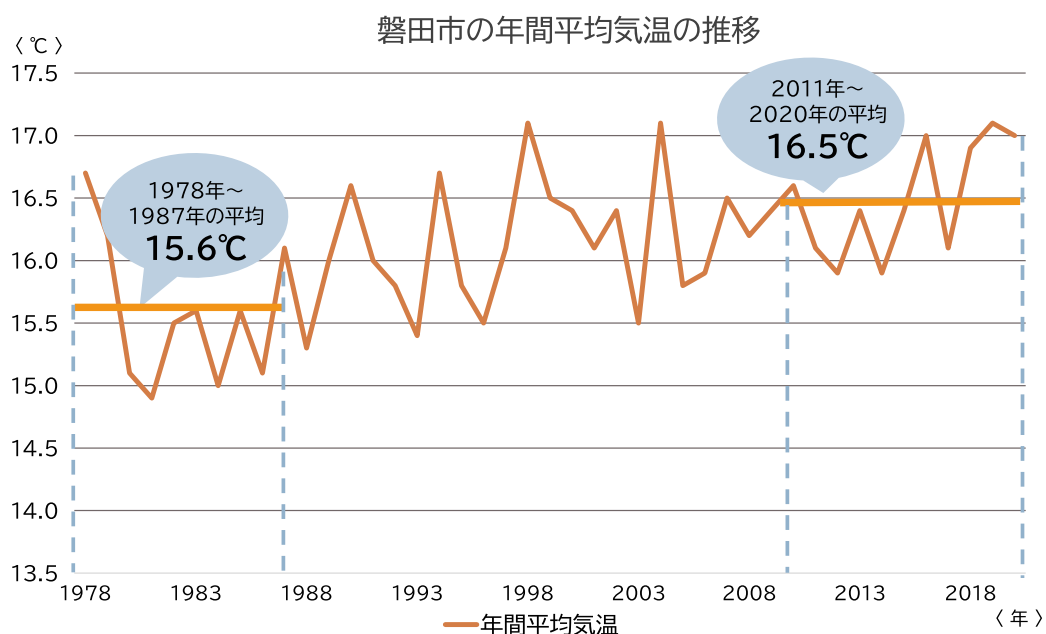
月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
降水量	月平均(mm)	59.5	79.6	157.0	179.9	163.6	211.7	232.5	145.4	219.5	220.6	90.6	68.7	1,828.2
気温	日平均(℃)	6.2	7.0	10.7	14.7	19.2	22.1	25.7	27.4	24.2	19.4	13.8	8.4	16.6
	最高(℃)	15.5	18.5	21.4	24.2	28.1	30.2	33.7	35.2	32.2	29.8	23.3	18.8	25.9
	最低(℃)	-2.3	-1.9	0.9	4.4	10.4	15.8	19.7	20.8	15.7	9.5	3.4	-0.3	8.0
日照時間	月平均(h)	215.7	189.3	209.9	214.0	231.5	168.5	193.3	236.0	173.0	168.8	183.6	205.1	2,388.6

(出典:気象庁ホームページ「過去の気象データ」を加工)

これまでの気象の変化

(1) 気温

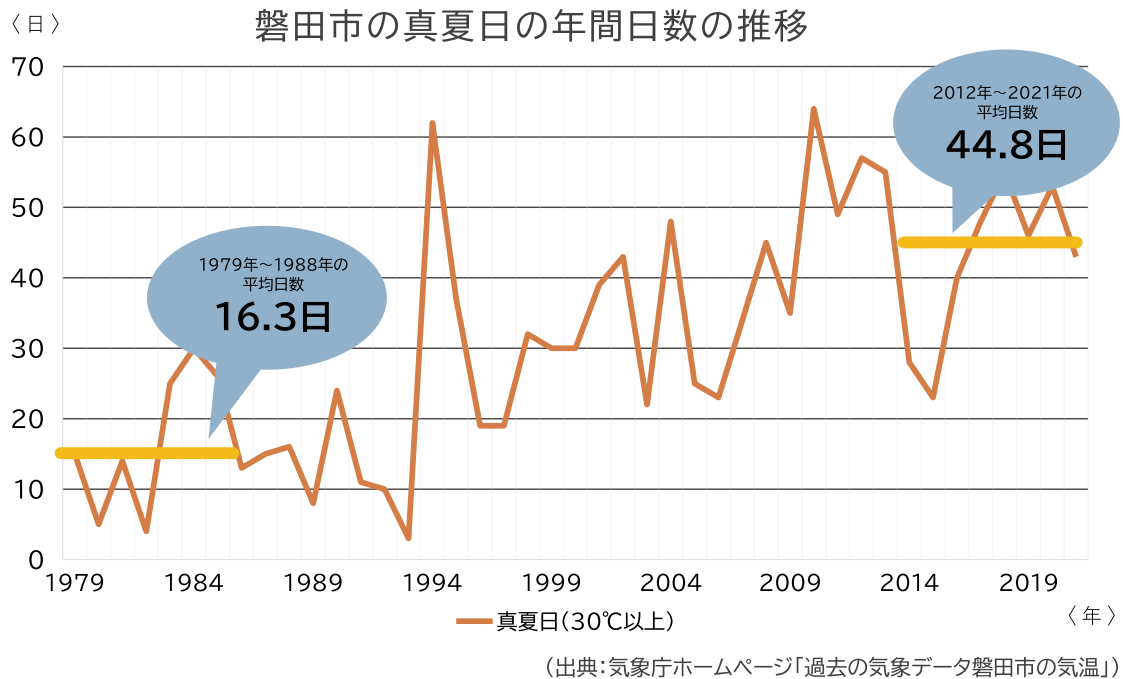
本市の年平均気温は、短期的な変動を繰り返しながら上昇しています。



(出典:気象庁ホームページ「過去の気象データ」を加工)

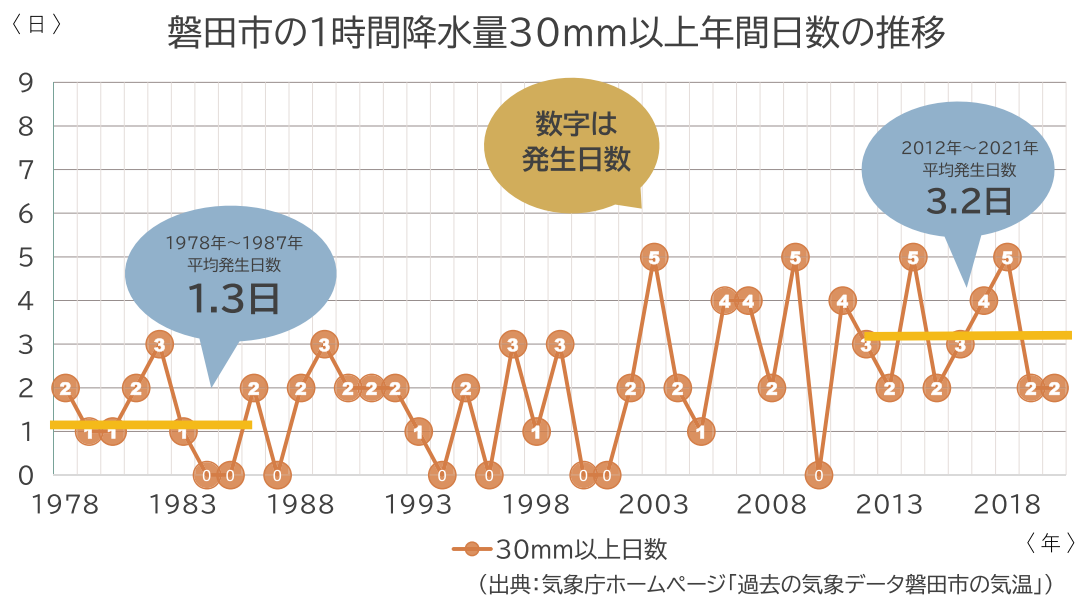
(2)真夏日・猛暑日

最高気温 30℃以上の真夏日や最高気温 35℃以上の猛暑日は、いずれも増加傾向にあります。特に直近 10 年間(2012年～2021年)の真夏日は平均 44.8 日で、統計を開始した当初の10年間(1979年～1988年)の平均 16.3 日に比べると 2.7 倍と大きく増えています。



(3)降水量

年間降水量は、年ごとに明確な変動を確認できないものの、1 時間の降水量が 30mmを超える日数は増加しています。具体的には、直近10年間(2012年～2021年)の平均年間日数は3.2日で、統計を開始した当初の10年間(1979年～1988年)の1.3日と比較すると約 2.4 倍に増えています。



3 気候変動の影響

特別に表記がない限り、本章での「現在」「将来」の表記は右のとおりとなります。

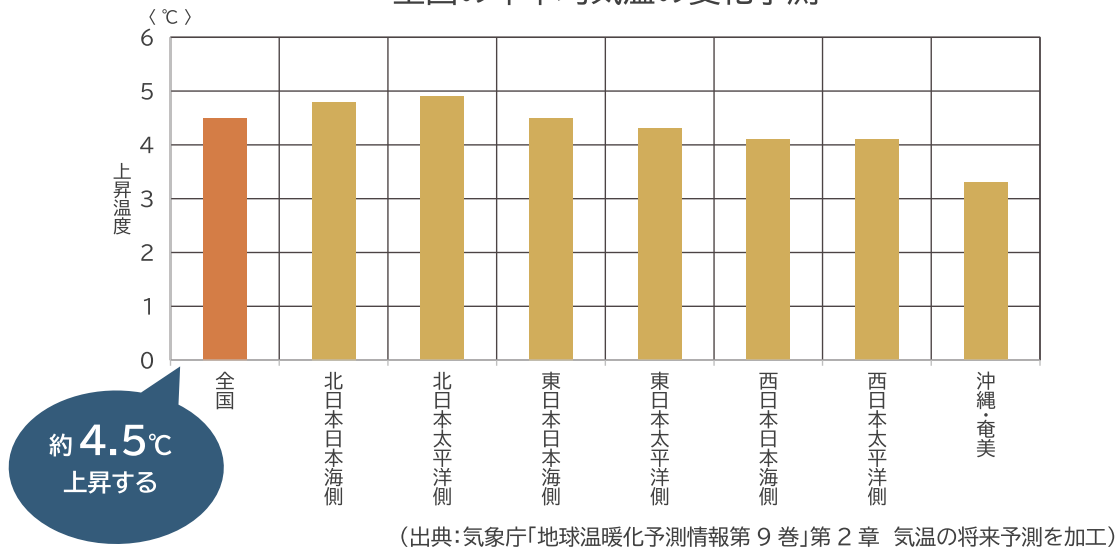
現在	20 世紀末 (1980 年～1999 年)
将来	21 世紀末 (2076 年～2095 年)

気候・気象の将来予測

(1) 気温

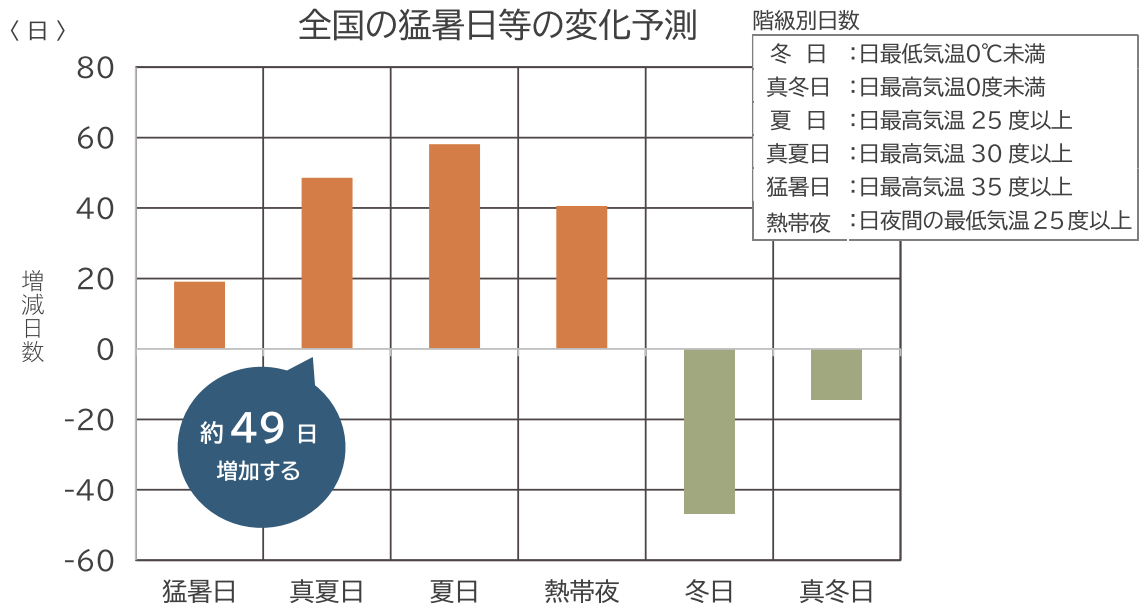
環境省は、最も地球温暖化が進んだ場合の想定として、将来の日本における年平均気温が現在より約4.5℃上昇するとしています。

全国の年平均気温の変化予測



(2) 真夏日・猛暑日

環境省は、最も地球温暖化が進んだ場合の想定として将来の日本においては現在より真夏日は年間約49日、猛暑日は年間約19日増加するとしています。



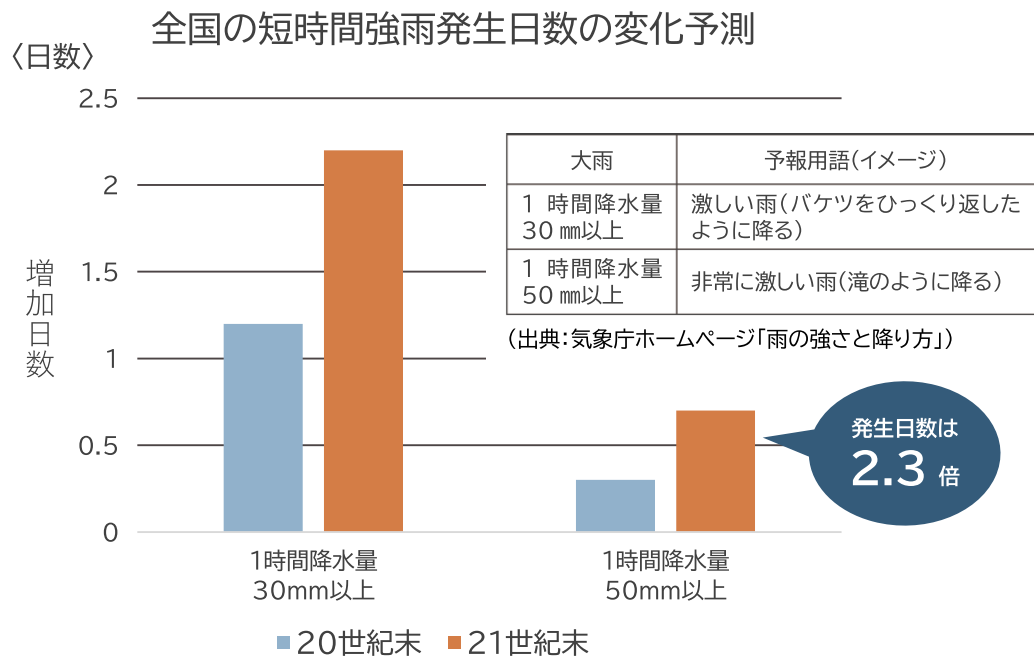
(3)降水量

環境省は、最も地球温暖化が進んだ場合でも全国平均の年降水量は明らかな変化は見られな
いと予測しています。

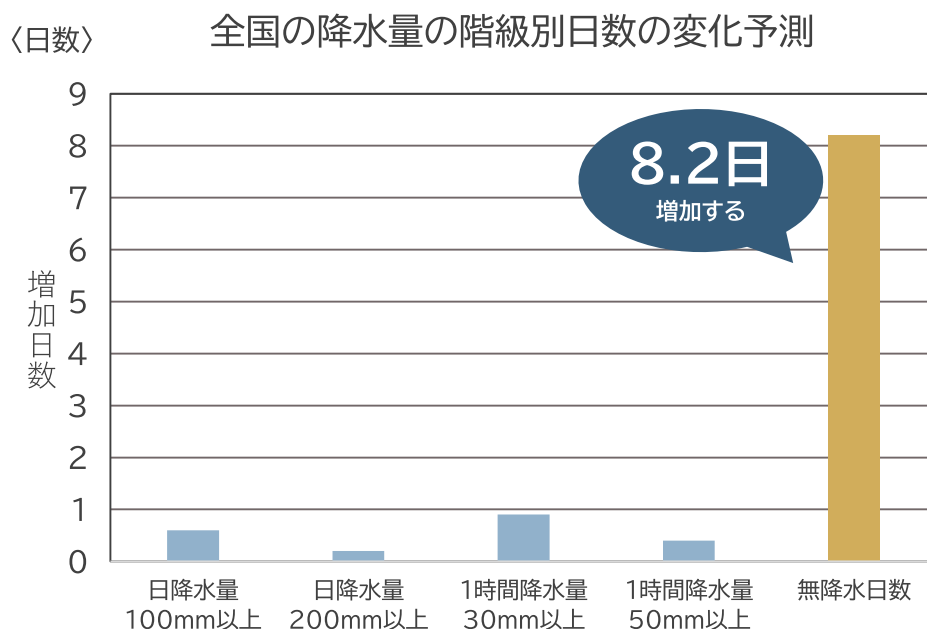
一方、100mm以上の大雨の発生日数について、将来は約1.4倍に増加すると予測しています。

また、1時間当たりの降水量30mm以上の短時間強雨の発生日数は約1.7倍、50mm以上の
発生日数は約2.3倍に増加すると見込んでいます。

さらに、日降水量が1.0mm未満の雨の降らない日数も増加すると予測しており、年間降水量が
大きく変わらない中で、大雨や短時間強雨が増加し、一方で降水のない日も増加することになりま
す。



(出典:環境省「気候変動影響評価報告」降水量・短時間強雨)



(出典:気象庁「地球温暖化予測情報第9巻」第3章 降水の将来予測)

本市は、温暖な気候や桶ヶ谷沼等の豊かな自然に恵まれている一方で、県下有数の製造品出荷額を誇るオートバイや自動車に代表される製造業が地域の産業を牽引しています。

このような人の営みと豊かな自然が調和する環境は、人々の健康を保ち、文化的な生活を営むことにつながっています。私たちは、この街に生まれてくる子どもたちや集う人々にこの恵みを長く引き継いでいかなければなりません。

しかし、地球温暖化をはじめとする環境問題は、深刻化の一途を辿っています。そして、それは私たちの日常生活や事業活動から生ずる環境負荷が大きな原因とされています。

様々な要素が複雑に絡み合って生じる環境問題は、市・市民・事業者がそれぞれ環境に対する影響を自覚する中で協力して解決していくことが大切です。

このことから「第2次環境基本計画後期計画」は、磐田市環境基本条例の理念や「水と緑が彩る、みんなが暮らしやすいまち磐田」を望ましい環境像として継承するとともに、2050年のカーボンニュートラルの実現を掲げ、市民・事業者・市の協働により環境の保全と創造に向けた取組を目指すこととします。

基本理念

- (1) 市民にとって健康で文化的な生活を営む上で欠くことのできない健全で恵み豊かな環境を保全し、これを将来の世代に継承すること。
- (2) 人と自然との共生の確保を目的とし、自然環境に恵まれた市の地域特性を生かすこと。
- (3) 環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会を実現するため、市、市民及び事業者は、その責務に応じた公平な役割分担の下に、自主的かつ積極的に取組むこと。
- (4) 地域における事業活動及び日常生活が地球全体の環境にも影響を及ぼすとの認識の下に、地球環境の保全に寄与すること。

【磐田市環境基本条例第3条 抜粋】